



子ども福祉部門

- 啓明児童クラブ 福井市朝谷町 1-20 (美山啓明幼稚園内)
上文殊児童クラブ 福井市生部町 36-6 (上文殊小学校内)
足羽東こども園 福井市東大味町 10-1-1
足羽学園 福井市宿布町 19-46-1
子ども発達支援センターフレンズあすわ 福井市大和田 1-1607
フレンズみゆき 福井市御幸 4-106-2
フレンズどれみ 吉田郡永平寺町松岡神明 1-128



障がい者福祉部門

- 足羽ワークセンター 福井市梅野町 20-5
足羽サポートセンター 福井市米松 2-6-28
パステル 福井市御幸 4-1806
スマイル 福井市和田東 1-2105
カラフル 福井市林町 62-3
足羽更生園 福井市宿布町 19-46-1
あすわ第1 / あすわ第2 / あすわ第3 福井市内17ヶ所
あすわ相談支援事業所リアン 福井市米松 2-6-28



高齢者福祉部門

- 愛全園 福井市丸山町 40-7
足羽利生苑 福井市梅野町 20-7
グループホーム美山 福井市美山町 6-1
福井大東包括支援センター 福井市丸山町 40-7 愛全園 3階



ごあいさつ

新型コロナウイルス感染のパンデミックが起きて、約2年が経ちました。「withコロナ」といっても、感染防止を優先するため、利用者様や職員もまだまだ制限のある暮らしを強いられています。加えて今年2月からのロシアによるウクライナ侵攻もまた、私たちの社会や世界全体に大きな影を落としています。「平和」「人権」「豊かで安全な暮らし」など、当たり前だったはずの現代社会の基となっている価値観が揺さぶり続けられています。

そんな先の見えない困難な時代ですが、私たちにできることは、思考停止にならずに、利用者様や地域社会の幸せ（問題解決）のために、皆で愚直に取り組むことではないかと考えます。よい方法はないか「考えて、試して、振り返って、改善策を考えて」のPDCAを繰り返すこと、それをどれだけ職場の仲間や事業所、そして法人全体、地域全体で取り組めるかが、私たち自身の未来にもつながっていくはずです。

足羽福祉会では、令和2年度から4年度までの3か年を第Ⅳ期中期事業計画の実施期間としました。スローガン「たのしもう、つながろう、そしてのりこえよう!!」のもと、以下の8つの取り組み目標を踏まえて、各部門、各事業所が具体的な行動目標を立てて取り組みました。

- (1) 本人の「いいところ探し」から夢や願いの実現につながるよう、チームで取り組みます。
- (2) 生活困窮、災害、まちづくり等の地域課題に包括的に応えます。
- (3) SDGsの理解を深め、分野を超えた交流、研修を通して具体的に取り組みます。
- (4) 新人事管理制度「あすわers」の理解を深め、成長の意欲向上につなげます。
- (5) さまざまな立場の人が活躍し、支え合える職場環境を作ります。
- (6) 足羽東こども園の園舎改築を行い、新たな地域拠点として再生します。
- (7) ICT活用により、ペーパーレス化、会議短縮など業務改善を進めます。
- (8) 小規模事業所の経営改善をはかり、法人全体の収支を向上させます。

この1年の取組みを「Annual Report 2021」にまとめましたが、着実に進んだ内容もありますし、足踏みして前に進めていない現状もあります。しかし達成できたことは素直に喜び、できなかったことも真正面から受け止め、皆でできることを考えて、あきらめずにやり抜く姿勢、これこそ私たちのめざす「赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無にかかわらず安心して暮らせる共生社会の実現」のために不可欠なマインドです。悲観も楽観もせず、平常の心で私たちは目標に向かって歩み続けます。

令和4年4月

社会福祉法人 足羽福祉会
理事長 高村昌裕



Annual Report 2021 CONTENTS

令和3年度 全体報告	ごあいさつ	01
	法人理念	03-04
	長期ビジョン ASUWA2030+中期事業計画	05-06
	令和3年度 法人ハイライト	07-08
	事業内容・マップ	09
	法人概要・決算報告	10
	データで見る足羽福祉会	11-12
事業所報告		
子ども福祉部門	啓明児童クラブ/上文殊児童クラブ	15
	足羽東こども園	16
	足羽学園	17
	あすわ児童発達支援センター (子ども発達支援センター フレンズあすわ/フレンズみゆき/フレンズどれみ)	18
障がい者福祉部門	足羽ワークセンター	19
	足羽サポートセンター	20
	パステル	21
	スマイル	22
	カラフル	23
	足羽更生園	24
	あすわ第1 /あすわ第2 /あすわ第3	25
	あすわ相談支援事業所リアン	26
高齢者福祉部門	愛全園	27
	足羽利生苑	28
	グループホーム美山	29
	福井大東包括支援センター	30



法人理念

共に生き、共に集う、
光を求めて。

職員行動指針

私たちは、人として、福祉専門家として
「共に生きる人」を目指し、利用者様と共に、
地域と共に、職員と共に歩みます。





理想の人財像を目指す長期ビジョン

ASUWA 2030

理想の人財像を目指す
長期ビジョン

ASUWA 2030

01 住み慣れた地域で
「自分らしく」生きることの実現

02 共生社会実現に向けて
地域、社会の課題解決を図る行動

03 成長し、支え合い、
笑顔あふれる職場にする働き方改革

そして今、
やるべきこと

たのしもう、つながろう、そしてのりこえよう!!
第IV期 中期事業計画 2020～2022

- 1 本人の「いいところ探し」から夢や願いの実現につながるよう、チームで取り組む。
- 2 生活困窮、災害、まちづくり等の地域課題に包括的に応える。
- 3 SDGsの理解を深め、分野を超えた交流、研修を通して具体的に取り組む。
- 4 新人事管理制度 "あすわers"の理解を深め、成長の意欲向上につなげる。
- 5 さまざまな立場の人が活躍し、支え合える職場環境を作る。
- 6 足羽東こども園の園舎改築を行い、新たな地域拠点として再生する。
- 7 ICT活用により、ペーパーレス化、会議短縮など業務改善を進める。
- 8 小規模事業所の経営改善をはかり、法人全体の収支を向上させる。

令和2年度の活動 令和3年度の活動 令和4年度の活動予定

サービス実践報告会のオンライン実施		
・足羽川ふれあいマラソン コロナ禍により延期 ・新型コロナウイルス 対応BCP策定	・足羽川ふれあいマラソン コロナ禍により再延期 ・災害対策本部の在り方検討	・足羽川ふれあいマラソン 持続可能な開催モードで検討中 ・全事業所災害時BCP策定
足羽福祉会 SDGs宣言に向けた検討・準備		足羽福祉会 SDGs推進室の発足
あすわers 運用開始	育成プログラムの始動・運用	あすわers 推進会議の発足
・障がい者 法定雇用率4.0% ・前年度より EPA連携継続	・障がい者 法定雇用率4.3% ・新たな外国人職員の採用(P28参照)	・障がい者法定雇用率、女性管理職比率 前年比増へ ・EPA、外国人留学生の積極的な受入推進
改築計画開始	園舎の改築、グループホームの新築移転完了 (P16、P25参照)	
WEB会議導入	・グループウェア導入 ・勤怠管理の電子化開始	・会議資料のペーパーレス推進 ・労務管理の電子化開始
法人10ヵ年資金計画に基づき経営安定化の目算	社会資源としての必要性を考慮し、改善策を引き続き検討	地域ニーズに適したサービス再編

令和
3年度

法人ハイライト

01 目指す人財像へ向けた 新たな研修プログラム

法人独自の人事管理制度「あすわers」のスタートに伴い、「目指す人財像」へ職員を導く研修プログラムが始動しました。法人や支援の理解を深めるスタートアップ研修、フォローアップ研修をはじめ、これまでを振り返り、今後のキャリアの方向性と必要なアクションに対する考えを深めるキャリアビジョン研修、事業環境の変化や課題に対応し、安定した事業運営のための役割遂行能力を高める管理職を対象としたマネジメント研修、安心して長く働ける職場環境づくりを推進していくための労務管理研修など、体系化された研修プログラムでありたい自分への意欲づくりを法人全体で支援していきます。



入職半年を振り返り、気づきや同期から刺激を得るフォローアップ研修



新築移転したグループホームたんぼぼ(右上段)
さまざまな学びや遊びが体験できる新たな園舎(左上段、下段)

02 新たな地域拠点の完成

第Ⅳ期中期事業計画の目標でもある足羽東こども園の園舎改築を行い、新たな地域拠点として再生しました。子どもの成長や生活時間に合わせた居室を多数設置。子どもたちが自発的に活動できる工夫を取り入れ、一時預かりなどの地域ニーズに対応できる施設に生まれ変わりました。今年度はグループホームたんぼぼも新築移転。少人数で家庭的というグループホームらしい機能を持たせながら、従来の福祉イメージを刷新するモダンでおしゃれな施設になりました。回遊性の高い間取りにすることで、コミュニケーションや笑顔が自然に生まれる居心地の良い空間になっています。

03 新型コロナウイルス感染症 への対応

新型コロナウイルスの脅威は衰えることなく、1月より感染者が急増。これまでにない感染者数が報じられました。足羽福祉会内では、新型コロナウイルス対策本部会議を通じ、日常的な注意喚起を行っています。9月には新型コロナウイルスに対応した事業継続計画を更新。リスク管理を徹底し施設のクラスター発生は0件と集団感染を封じ込めることで、サービス提供を継続することができました。またコロナ禍であっても入所する利用者様とご家族が面談できるよう、オンライン面談を実施するなどICT活用を積極的に実施し利用者様の満足と安心を確保しました。日々刻々と変わる感染状況を注視しながら、引き続き万全の対応に全力を尽くしてまいります。



新型コロナウイルス感染発生を想定した緊急時対応訓練

04 地域に向けたカケルフクシ発信

「カケルフクシ」をキーワードにスポーツやカフェ運営、ロボット、デザインなどをかけ合わせることで地域生活の楽しみや学びを生み出し、福祉の新たな価値やイメージ革新につながる取り組みを展開します。今年度は福祉×芸術をテーマに企画。各事業所の利用者様による彩り豊かなクラフトワークを展示したり、足羽福祉会のアート展である〇展(えんてん)を開催しました。この催しは障がい者の作品としてではなく、個人の生み出すエネルギー溢れる素敵な作品を地域に発信することが目的です。福祉の魅力を伝えることをはじめ、共生社会の実現に向けて貢献していきます。



福井市美術館で開催した個性豊かなアート展・〇展(えんてん)

05 多様性のある組織への取り組み

少子高齢化に伴う福祉人材の担い手不足は、福祉業界における大きな課題です。このような課題解決に向けて、足羽福祉会では障がいや国籍、性別等の属性に捉われない多様な人材活用を目指すDE&I(ダイバーシティ・多様性、エクイティ・公平性、インクルージョン・包括性)の取り組みを開始。前年度から福井県内の介護福祉士養成学校とパートナーシップを結び将来人材への奨学金貸与事業を始め、EPA(経済連携協定)を活用した外国人介護職員採用にも積極的に取り組み、本年度2名の外国人介護職員の採用にいたしました。今後も外国人材をはじめ障がい者やシニア雇用など多様な人材の雇用創出を図っていきます。



今年度採用した外国人介護職員(上段)、実習予定の留学生との懇談(下段)

06 足羽福祉会をもっと知って いただくための デザイン戦略スタート

法人理念やビジョン、サービスを地域や支援の必要な方へわかりやすく伝えるためのデザイン戦略に着手しました。この取り組みは足羽福祉会のブランドづくりにとまらず福祉業界のイメージを変え、魅力化していくことを目的としています。パンフレット類やホームページのリニューアルを皮切りに、「足羽福祉会イイね!」「福祉イイね!」とさせていただくこと、そして職員の誇りとやりがいにつながるビジュアルデザインを開発していく予定です。福祉の担い手不足解消に貢献できるようにリクルート活動にも活用し、学生や求職者に響く発信を強化。様々な方向から福祉ブランドを高めていきたいと考えています。



採用ホームページはじめ各種冊子も順次リニューアル

子ども 福祉部門



あつという間に過ぎる「子どもたちの今!」。そんな大事な時間を共に過ごす私たちは、遊びや学びを通して、やさしく、ちから強く、児童一人ひとりの「らしさ」を引き出すために、ご家族・関係機関と連携しながら支援を続けています。

啓明児童クラブ/ 上文殊児童クラブ

- 放課後児童クラブ

足羽東こども園

- 幼保連携型認定こども園

足羽学園

- 福祉型障害児入所施設
- 短期入所

子ども発達支援センター フレンズあすわ

- 児童発達支援
- 放課後等デイサービス
- 保育所等訪問支援 ●短期入所
- 児童発達支援センター機能強化事業(福井市委託事業)

フレンズみゆき/ フレンズどれみ

- 放課後等デイサービス

障がい者 福祉部門



利用者様それぞれが持つ「ちから」に気づき、引き出し、輝かせること。地域に暮らし、社会の一員として人生を自分らしく楽しむための支援をすること。私たちは、地域社会との交流を通して利用者様一人ひとりが望む暮らしの実現に取り組んでいます。

足羽ワークセンター

- 就労継続支援B型
- 就労移行支援 ●就労定着支援

足羽サポートセンター

- 就労継続支援B型

パステル

- 自立訓練(生活訓練)
- 就労継続支援B型

スマイル/カラフル

- 生活介護

足羽更生園

- 施設入所支援 ●生活介護
- 短期入所 ●日中一時支援

あすわ第1/あすわ第2/あすわ第3

- 共同生活援助 ●短期入所

あすわ相談支援事業所リアン

- 計画相談支援 ●障害児相談支援
- 地域移行・地域定着支援

高齢者 福祉部門



長い年月を過ごし、ご家族や社会への責任を果たしてきた高齢者の方々。そんな皆さまといっしょに、若者のように笑い、泣き、語り、遊び、感動したい。親しみのある地域で、これからも新しい思い出をつくっていただけるようお手伝いしていきます。

愛全園

- 特別養護老人ホーム
- 認知症対応型共同生活介護
- 短期入所生活介護
- 通所介護
- 居宅介護支援センター

足羽利生苑

- 特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護
- 通所介護
- 居宅介護支援センター

グループホーム美山

- 認知症対応型共同生活介護
- 小規模多機能型居宅介護
- 共生型生活介護・短期入所

福井大東包括支援センター

- 相談支援

足羽福祉会は、赤ちゃんからお年寄りまで安心して利用できる総合福祉事業として、様々な施設・サービスを通し、地域に開かれた、地域に信頼される福祉を目指しています。

法人概要

- 名称 社会福祉法人 足羽福祉会
- 所在地 〒910-2178 福井県福井市梅野町20-7
- 事業内容 第一種・第二種社会福祉事業(保育・障害・高齢)
公益事業(ボランティア育成事業(足羽川ふれあいマラソン)、介護福祉士養成奨学金貸付事業、生活困窮者相談支援事業)
- 理事 理事長 …… 高村 昌裕
常務理事 …… 滝波 正興
理事 …… 柳沢 全之
理事 …… 中尾 亨
理事 …… 中村 まゆみ
理事 …… 山形 裕之
理事 …… 矢納 ともえ
理事 …… 岩本 昌雄
理事 …… 嶋田 富士男
- 監事 監事 …… 朝倉 乗恵
監事 …… 田中 治

- 職員数 536名

- 総収入 30億1,947万円(令和3年度実績)

■ 主な資格の保有職員数

- 社会福祉士 …… 38名
- 介護福祉士 …… 142名
- 精神保健福祉士 …… 5名
- 介護支援専門員 …… 40名
- 理学療法士 …… 1名
- 作業療法士 …… 5名
- 看護師 …… 18名
- 保育士 …… 80名

■ 職員満足度向上の取り組み

- 社員ファースト企業認定(福井県)
- 子育てファミリー応援企業認定(福井市)
- ふくい女性活躍推進企業+登録(福井県)
- 職員健康づくり宣言(協会けんぽ)

決算報告

貸借対照表

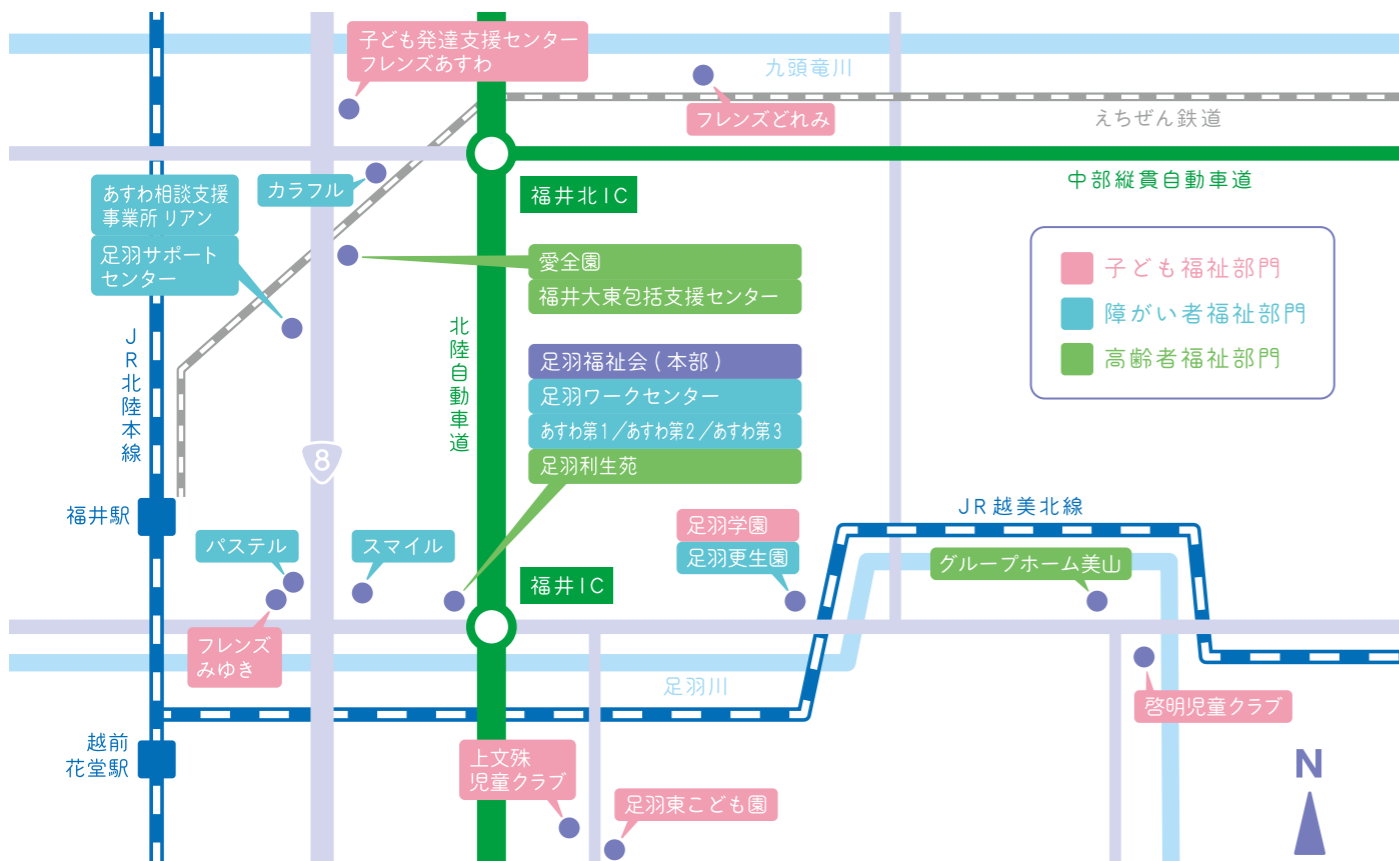
令和4年3月31日現在

流動資産	12億8,740万
固定資産	36億2,425万
資産合計	49億1,164万
流動負債	8億5,358万
固定負債	5億9,693万
負債の部合計	14億5,051万
純資産の部	34億6,113万
負債及び純資産合計	49億1,164万

事業活動計算書

自令和3年4月1日
至令和4年3月31日

サービス活動収益計①	30億1,947万
サービス活動費用計②	30億3,878万
サービス活動増減差額③=①-②	-1,931万
サービス活動外収益計④	1,016万
サービス活動外費用計⑤	231万
サービス活動外増減差額⑥=④-⑤	785万
経常増減差額⑦=③+⑥	-1,146万
特別収益計⑧	1億4,891万
特別費用計⑨	1億7,943万
特別増減差額⑩=⑧-⑨	-3,052万
当期活動増減差額⑪=⑦+⑩	-4,198万
前期繰越活動増減差額⑫	22億9,642万
当期末繰越活動増減差額⑬=⑪+⑫	22億5,444万
その他の積立金取崩額⑭	1億2,623万
その他の積立金積立額⑮	6,280万
次期繰越活動増減差額⑯=⑬+⑭-⑮	23億1,786万



令和3年度

データで「見」る足羽福祉会



離職率

全国産業別
離職率**14.2%**
(令和2年:医療・福祉)
※厚生労働省雇用動向調査より



8%

全国より低い離職率を維持しています。

産休・育休取得率

働きやすい環境づくりのため
100%を実現しています。



前年度
今年度
共に

100%

有給休暇取得率

全国産業別
有給休暇取得率**58%**
(令和2年:医療・福祉)
※厚生労働省就労条件総合調査より

53%

全国平均並みの取得率ですが、有給休暇の取得がしやすい環境づくりにも引き続き取り組んでいます。

実習受け入れ率



100%

コロナ禍においても、適切な
感染防止体制のもと受け入れ
を行いました。

月平均残業時間

全国産業別
所定外労働時間
4.6時間
(令和3年:医療・福祉)
※厚生労働省毎月勤労
統計調査より



9時間

勤怠管理ソフト
の導入により、
労働時間の適正
化を図る工夫を
行っています。

リクルートエントリー数と 前年対比

前年度
21卒**15名**

22卒80名



昨年と比べ
なんと4倍!

様々なツールを駆使し、
求職者のハートを捉える
取り組みが生きています。

育児時短勤務者

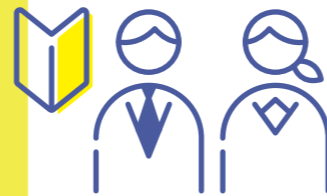


前年度
32名

32名

前年同様高水準を維持しています。

研修開催数



前年度
13回

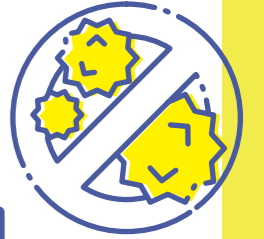
23回

前年度はコロナ禍の影響がありましたが、
webを活用した研修環境を整え、例年並
みの研修を行うことができました。

新型コロナウイルス 対策会議数

前年度
21回

34回



福井県の感染防止体制を見なが
ら、法人の体制について繰り返し
協議を行い感染防止に努めま
した。

リスクマネジメント

ヒヤリハット件数

前年度

349回

407回

事故

前年度

811回

702回

苦情件数

前年度

33回

35回

各施設からの報告を法人で取
りまとめ、年2回、苦情解決第
三者委員会を開き、情報共有
と専門家からのアドバイスを
いただいています。



健康診断および生活習慣病 予防健診受診率

100%



健康経営に取り組む法人として、職員の
健康管理にも万全の体制を整えています。

財務安定性



純資産
比率

70.47%

一般的には「自己資本比率」ともいい、
経営の安定性を示す指標です。

流動
比率

150.82%

短期的な支払能力を示す指標です。
150%以上が望ましいとされています。



「ありがとう」と 言いあえる仕事。

私たちは、誠実、信頼、貢献を忘れずに
利用者様を支えさせていただいています。

人間はひとりでは生きられない。
自由じゃなかったり、年老いたり。
どんな人も、誰かが誰かの支えが必要です。
そんな支えにパワーをくれるのは
「ありがとう」という言葉。
子どもたちの成長や、
利用者様の笑顔が
うれしくて、うれしくて、
みなさんに「ありがとう」と
言い続けています。
私たちは福祉のプロ、
足羽福祉会の仲間たちです。



事業所報告



啓明児童クラブ/ 上文殊児童クラブ

啓明児童クラブ/上文殊児童クラブは、昼間保護者のいないご家庭の小学生が対象。放課後及び長期学校休業中に児童に安心して過ごしていただけます。遊びなどを通して心身ともに成長できる場を提供することで、保護者の方が安心して勤務できるように支援いたします。

啓明児童クラブ 事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と健全な育成
仕事と子育ての両立支援
- (2)対象利用者 美山啓明小学校または羽生小学校に通う児童(1年生～6年生)
- (3)所在地 福井市朝谷町1-20(美山啓明幼稚園内)
- (4)管理者名 岩本 昌雄

上文殊児童クラブ 事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と健全な育成
仕事と子育ての両立支援 定員/30名
- (2)対象利用者 上文殊小学校に通う児童(1年生～6年生)
- (3)所在地 福井市生部町36-6(上文殊小学校内)
- (4)管理者名 鎌塚 光男



新型コロナウイルス感染防止への取り組み

啓 明児童クラブは縦割り班活動が中心でしたが、感染拡大を防ぐため各校エリア別の体制とし、職員も担当制としました。共有スペースは、各校の児童が時間差を設けて使用しています。



ハロウィンパーティー 2021

新 型コロナの影響で3年ぶりの開催でした。各々が仮装し、地域の施設や企業など7か所を歩いて訪問。誰ひとりへこたれることなく歩き、お菓子をいただくことができました。

安心してお仕事を
いただけるよう、安全に
お子さまの成長を
支援します。



次年度に向けた取り組み 生活の連続性保障を目的とした「特に気になる子ども」への支援を強化します。「足羽福祉会SDGs宣言」の内容を理解し、2030年に向けた具体的取組目標を掲げ、児童たちと共に実践していきます。

啓明児童クラブ

Tokyo2020聖火ランナーの トーチご披露

職 員が実際に使用したトーチに触れて、児童たちは自国開催のオリンピックに関心ひとしお。「いつかオリンピックに出るんだ」という気持ちが表情にあふれていました。



上文殊児童クラブ

コロナ感染予防対策の実施

今 年度も、学校教育課の指導に基づき対策を実施。クラブ内での感染防止の徹底、保護者との間で児童の健康状況等を共有しました。結果、利用児童の感染発症はありませんでした。

学年を超えて、
個性がつながり
仲間が生まれる。



関係機関と連携交流活動の実施

上 文殊小学校、足羽東こども園、啓明児童クラブ職員と児童が情報交換を行いました。さらに、関係機関との間で、活動状況のお便り配布、プレゼント交換等のイベントを行うことで交流を深めています。

主体的に遊び込める 環境づくりの実施

主 体的な遊びができる遊具等を整えました。そのことで、遊びの中で自分の個性を伸ばし、個の遊びが仲間遊びに発展。また、高学年と低学年が共に過ごすことで、お互いが育ちあうようになりました。



次年度に向けた取り組み 法人施設と連携し、感染予防をしながら、放課後や長期休業日に児童に安全で安心な場所と楽しい活動を提供。保護者が子育てと仕事を両立できるような支援を行っていきます。

足羽東こども園

文殊山のふもと、四季折々の自然が感じられる足羽東こども園。令和4年春に竣工した新園舎では「自然活動、交流活動、たてわり活動、楽しい給食、体操教室、健康・安全活動」をかねて、一人ひとりが自らを發揮し豊かな感性を持った子ども達が育っています。

事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 幼保連携型認定こども園 定員/1号:12名、2・3号:130名
- (2)対象利用者 0～5歳児の乳幼児
- (3)所在地 福井市東大味町10-1-1
- (4)管理者名 三上 登美子

園舎改築の着工および完成

新 園舎は、子ども達の目線に立ち、安全に配慮した設計で、明るく開放的な保育室、様々な学びや遊びが体験できるような環境となっています。また、スタッフルームの設置など職員が働きやすい環境の工夫、在宅児や保護者支援のための面談室、一時預り室等の環境を整えました。



子ども達といっしょに、
新しい環境で、
新しい取り組みを。



新人事管理制度 (あすわers)への理解と 働きやすい職場となる 取り組み

あ すわersへの理解を深めるため、毎月の会議で、疑問点や確認したい内容について意見交換を実施。また、新園舎建設のための引越やコロナ対策など困難な状況に対しても、シフトの工夫や様々な業務に対する協力体制を整え解決することができました。

感染症や事故から 子ども達を守る取り組みや 保護者連携の実施

新 型コロナでは、3月に入り園児、職員の感染が確認されました。保健所や福井市の指示のもと、休園、クラス閉鎖の措置をとり、消毒や健康観察、職員の一斉PCR検査などの対策をとりました。また、保護者へ日々情報提供を行い、ご家族の協力もあって大きな広がりをおさすことができました。



次年度に
向けた
取り組み

新園舎で園児が自由で多様な刺激を受けられる環境整備を目指します。特に遊戯室・絵本コーナーなど、自分の好きな遊びに集中できる環境づくりと、既存の遊具や樹木などの周囲の自然に溶け込み、のびのびと遊べる園庭づくりを行います。



足羽学園

現在、障がいのあるお子様の成長を支える仕組みが増えた一方、社会的擁護や自閉スペクトラム症など専門的支援ニーズは高まっています。私たちは、利用者様が地域で安心して暮らせるよう、ご家族・関係機関と連携しながら、一緒に考えていきます。

事業所データ(令和4年4月1日現在)

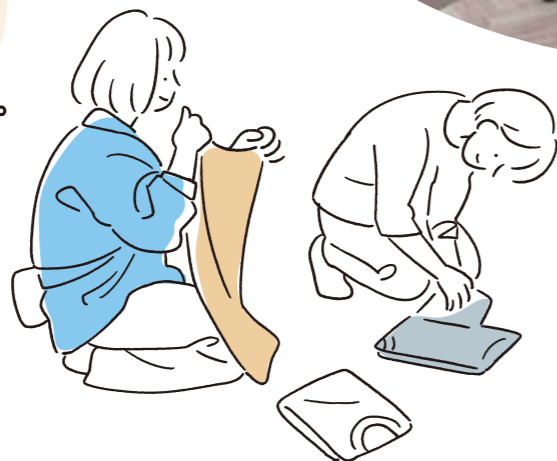
- (1)事業内容 福祉型障害児入所施設 定員/20名 短期入所支援 定員/4名
- (2)対象利用者 18歳までの知的に障がいのある子ども
- (3)所在地 福井市宿布町19-46-1
- (4)管理者 嶋田 富士男

思いを聞きながら、子ども達が主体となって活動する取り組み

コロナ禍が続く中で、感染状況を見ながらの活動提供となりましたが、敷地内でのBBQや、足羽更生園と合同でキッチンカーを呼んでのお買い物体験、お仕事の疑似体験等、子ども達がワクワク楽しみながら行える活動づくりに努めました。子ども達の「やりたい」思いを聞き、子ども達主体の活動を行うことで、多くの笑顔に出会うことができました。



地域と共に、子ども達を支えていきます。



地域で暮らしている方が安心安全に過ごせる支援

児童相談所から社会的擁護(虐待等)の観点による一時保護の依頼があり、2名の児童についてのべ61日の受け入れを行いました。地域の中で子ども達の育ちを支えていくことが本来の姿ですが、難しい状況の時には当園で一時的にお預かりし、その間に児童相談所が中心となり調整を図ることで家庭引き取りとなりました。



利用者様の安心を守るための感染対策の取り組み

11月18日、新型コロナクラスター発生対応訓練を実施しました。初動対応では陽性者の状況把握や関係機関への連絡の動きを実施。続く足羽学園での訓練では、ユニット内のゾーニングや、レッドゾーンに立ち入る際の防護具着脱の確認等を行いました。特に初動の中では、職員個々が行動履歴を詳細に記すことの重要性を痛感しました。



次年度に向けた取り組み

子ども福祉部門の合同行事として「子どもアート展」開催や、子育て世代の家族を対象とした「公開セミナー」の企画、運営を行います。高等部の児童に対して、青年期への移行が円滑にできるように、生活プログラムを整え、関係機関との連携強化に取り組みます。職員が安心して業務に臨めるように、労働環境の改善に取り組みます。

あすわ児童発達支援センター

幼児期・学齢期のさまざまなライフイベントに保護者の皆様と一緒に取り組んでいます。日々の悩みや課題などにも、ご本人の夢に向かうステップを専門職としてサポートし、関係機関と連携しながら家庭と学校以外の第三の居場所づくりに努めています。

子ども発達支援センター フレンズあすわ 事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 ①児童発達支援 定員/12名
②放課後等デイサービス 定員/10名
③保育所等訪問支援
④短期入所 定員/5名
⑤児童発達支援センター機能強化事業
- (2)対象利用者 ①就学前の児童(7歳未満)
②学齢期の児童(6歳以上18歳未満)
③18歳未満の児童
④当センターの利用者様
⑤福井市内在住の方
- (3)所在地 福井市大和田1-1607
- (4)管理者名 渡辺 浩基

フレンズみゆき 事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 放課後等デイサービス 定員/10名
- (2)対象利用者 学齢期の児童(6歳以上18歳未満)
- (3)所在地 福井市御幸4-106-2
- (4)管理者名 渡辺 浩基

フレンズどれみ 事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 放課後等デイサービス 定員/10名
- (2)対象利用者 学齢期の児童(6歳以上18歳未満)
- (3)所在地 吉田郡永平寺町松岡神明1-128
- (4)管理者名 渡辺 浩基



医療的ケアの必要な子ども(以下、医ケア児)への継続的な支援

医ケア児への発達支援では、幼児期だけではなく、学齢期への支援にも取り組んでいます。これまでのように保護者の方の送迎ではなく、学校へのお迎えも始めたことで、より関係機関との情報共有が重要になりました。また、新たな幼児期の医ケア児受入れを開始するとともに、発達支援プログラムの充実を図りました。

コロナ禍だからできることの提供

新しい生活様式におけるwithコロナの考えを基軸に、マスクの着用やソーシャルディスタンスの確保など、決められたルールを守りながら以前と同じような活動、今だからできる安心・安全な活動を計画、実施することができました。



コロナ禍や利用様から得た学びを、新たな環境づくりに活かします。



利用者様からの学び

約2年半にわたる支援への取り組みは、学校などの教育機関との連携も手探りの状況でしたが、PDCAサイクルを回すことで、利用者様の行動の背景を推測。行動に変化が見えてきたことで、自信をもって支援に取り組むことができました。成果を保護者や関係機関と情報共有することで、本人を取り巻く環境にも変化が見られました。

次年度に向けた取り組み

①児童発達支援・放課後等デイサービスの個別支援計画を充実させ、ライフステージごとの本人らしさを形成できる発達支援に取り組みます。
②フレンズみゆきの建物の老朽化問題と、さらなる支援の充実を図るため、障がい者福祉部門で協議しながら解決に向けて検討していきます。

足羽 ワークセンター

事業所データ(令和4年4月1日現在)

(1)事業内容 就労移行支援事業 定員/10名 就労定着支援事業 定員/10名 就労継続支援B型事業 定員/30名 (3)所在地 福井市梅野町20-5
(2)対象利用者 就労意欲のある障がい者(障がいの特定なし) (4)管理者名 高村 昌裕

利用者様が生活の中心者となって未来を選択し「働きたい」「自立したい」という夢が実現できるよう支援しています。個別支援計画を基に日常生活を整え、利用者様のニーズや能力に応じた社会経験の場を提供し、目標達成を実感していただけるよう支援しています。



コロナ禍における外販弁当の需要増

コロナ禍という状況の中で、会議やイベントなどへのデリバリー等が増加し、販売数は昨年の2倍となりました。新しい企画としては、ユティック陸上競技部様とのコラボによる、アスリートを支える「アスリート弁当」を販売。あすわの木(県立図書館内)は感染対策を徹底しながら営業し、図書館イベントと連携したメニュー企画や物販を行いました。



社会に
貢献するための、
意欲と力を
応援します。



外販弁当 受注システムの導入

弁当の受注管理システムを導入し、注文から生産・配送までを一元管理することで、職員の業務負担軽減に取り組んでいます。昨年より始めた支援記録のモバイル化により、次年度もICTを活用した販売、商品開発など業務の効率化を図っていきます。

就職者3名達成と 就労定着支援の開始

就労移行カリキュラムである「介護補助」「飲食」コースを通して、3名の一般就労が決まりました。また11月より新たに就労定着支援事業を開始。障がいのある方が一般就労後に長期定着・活躍いただけるよう支援に取り組んでいます。今年度は6名の就職者に対して就労先を訪問し、課題解決に向けた支援を実施しています。



次年度に向けた 取り組み

B型全体の平均工賃支払い3万円以上を目指し、飲食業務において足羽更生園との連携により給食事業の効率化を推進します。また給食事業全体の収支改善を図り、オリジナル商品の開発および外販事業の新たな販路開拓・拡大を目指していきます。



足羽 サポートセンター

事業所データ(令和4年4月1日現在)

(1)事業内容 就労継続支援B型事業 定員/30名 (3)所在地 福井市米松2-6-28
(2)対象利用者 就労意欲がある障がい者(障がいの特定なし) (4)管理者名 波辺 順子

利用者様の「働きたい」という希望を実現し、豊かな社会生活が送れるよう個別支援計画を基にサービスを提供しています。企業での「施設外就労」も実施しており、社会体験活動にて一人ひとりが社会の一員だと感じられるよう支援しています。



楽しかった研修旅行

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、できないと諦めずどうすれば実現可能なのか!を考え、利用者様、職員と共に感染予防を徹底の上で研修旅行を実施。来年こそは県外に出たい、宿泊したいという明るく積極的な気持ちをたくさん聞くことができました。

「働きたい」「役立ちたい」という気持ちを、
あたたかく育てていきます。



コロナに負けるな!

コロナ禍の中、閉所することもなく活動ができたことは利用者様のご協力があったからこそ。働き方のパフォーマンスを高めるために常に情報を仕入れ、事業所内で働きやすい環境を整えることができたのは地域企業様のご協力のおかげだと思います。

記憶を後世へ オリンピック聖火トーチ

事業所に東京2020オリンピック聖火トーチがやってきました。利用者様も興味津々。東京でのオリンピック開催を記憶に残し、後世に話ができるよう記念撮影。貴重な聖火トーチを貸出してくれた方に感謝しつつ笑顔で「ハイチーズ!」



次年度に向けた 取り組み

がんばれ サボセン! がんばれ 農耕作業!
来年度、利用者様の工賃向上のために農耕作業を始めます。始めるまでにさまざまな方のご教授、ご鞭撻をいただき外部販売を目指して利用者様と共に農耕作業に携わっていきたくと考えています。さらに、将来は農業事業体から委託を受けて農作業を行う事業も検討しています。



パステル

障がいに関して、成人期以降の支援はまだ不十分であると言えます。特に見えにくい障がいについては長い目で向き合うことが大切です。関係機関等と連携しながら、ご本人と支援者との信頼構築をつくり、ご本人やご家族の思いに寄り添いながら支援しています。

事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 自立訓練(生活訓練)事業 定員/10名 就労継続支援B型事業 定員/10名
- (2)対象利用者 地域での自立した生活や就労を希望する障がい者(障害の特定なし)
- (3)所在地 福井市御幸4-1806
- (4)管理者名 教賀 弘道



利用者様の強み・特技・長所を活かした活動充実

—エンパワーメント(強みへの着目)からの支援—

自 立訓練、就労継続支援B型の利用者様を問わず、これまでの個別作業に捉われることなく全体やグループでの活動に取り組みました。苦手意識や短所ではなく「得意だ!」「やりたい!」「挑戦したい!」という思いを日常プログラムに取り入れることで、利用者様自身の笑顔・自信・やる気につながっています。

「得意」「やりたい」「挑戦したい」、
自分の可能性をコツコツと
大切に育ててほしい。

利用者様の主体性を 尊重した学びの促進

—グループワーク体験や実践例から
楽しみながら学ぶ講座—

社 会的スキル」「コミュニケーション」「健康づくり」などの日常行為が利用者様にとっては苦手さ・困難さとして感じられることもあります。テキストや職員から一方的に教わるのではなく、他の利用者様の意見を聴くことや会話を通して、主体的に学びたい・知りたいという意識が自然に生まれる雰囲気づくりに努めています。



楽しみ・喜び・美味しいを 通してリフレッシュ

—月曜日からの心と
身体の充実に向けて—

週 末の過ごし方が苦手だという事例を活かし、今年度は週末の充実に入れコロナ対策をしながら土曜日に余暇活動(ゆんたくらぶ)として、ヨガ、書道、ゲーム、茶道、カラオケ、紅藍鑑賞、クッキー作りなど17回開催し、楽しみながらリフレッシュ。次回の企画を利用者様から聞かれるようになり、月曜日気持ち良く通えるようになっていきます。

次年度に 向けた 取り組み

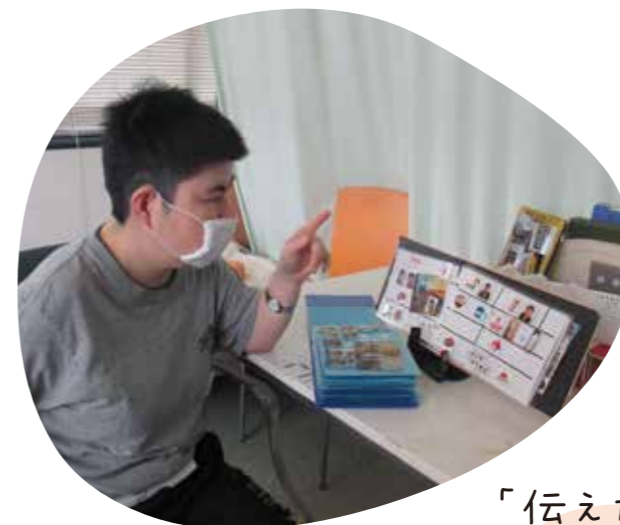
利用者様、ご家族の夢や目標の実現に向けて、切れ間・狭間のない新たなサービス展開を推進し、利用者様の生活・就労の充実(生活スキルの習得、健康管理の大切さ、余暇リフレッシュ、就労スキルの獲得・就職支援、定着支援など)を目指していきます。

スマイル

障害福祉サービスの生活介護事業として、利用者様の日中活動では、事業所内での軽作業や創作活動、社会体験活動や研修旅行などさまざまな活動があります。軽度～重度まで利用者様一人ひとりの可能性を求め、意思決定の場を通してニーズに合った活動提供のお手伝いをしています。

事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 生活介護 定員/30名
- (2)対象利用者 軽作業や余暇活動を通して生きがいをつくりたい障がい者(障がいの特定なし)
- (3)所在地 福井市和田東1-2105
- (4)管理者名 恵美 浄文



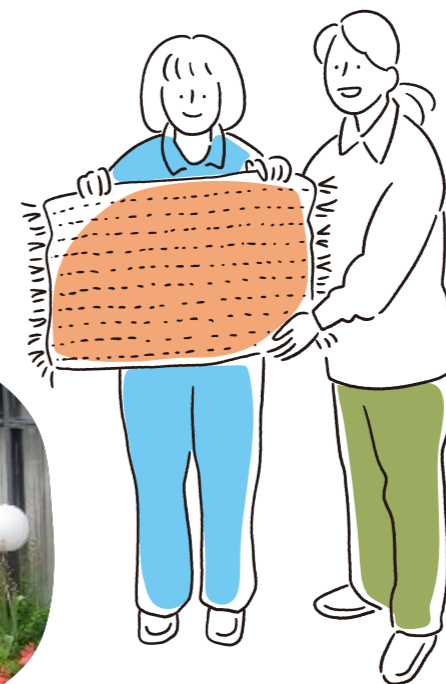
伝えたいこと、知りたいことを視覚的支援で実践

思 いや出来事を伝えたい」「イベントや通院など気になることを知りたい」ということがわからず大声を出したり、外に出ていったりする利用者様がいらっしゃいます。このような「言葉での表現に限りがある利用者様にとって、言葉の代替となるツールは何か」を考え、利用者様お一人おひとりの立場に立ち、支援の方法を検討しています。

「伝えたい」「知りたい」
ことを、いっしょに丁寧に
わかちあえること。

花を育てて 地域との交流の第一歩

事 業所を花でいっぱいにする「鮮やかな花でお出迎え」をテーマに、利用者様と花壇やプランターに種を植え、水をやり、種回収を季節ごとに行い大切に育てました。今後も「花いっぱい運動」を進め、地域との交流を展開していきます。
※花の種の一部は、グリーンセンターの「ふっくらんバンク」から提供いただきました。



みんなで作成したマットを 販売して新たな喜びに

利 用者様の活動としてマット編みに取り組んでいます。今年度はあすわの木(県立図書館内)とパン屋のセタロウ様(福井大学医学部前)での委託販売が好調で、定期納品しています。収益は利用者様に還元して、社会体験活動の際に好きなジュースを購入するなどの喜びにつながっています。

次年度に 向けた 取り組み

「利用者様お一人おひとりのニーズは何か」を求め、実現することができるように、支援や活動内容の提供において、さまざまな工夫を凝らしていきます。職員が支援のプロとして障がい特性や意思決定支援を学び、利用者様が地域の中で安心して生きいきと活躍できる場面づくりを目指します。

カラフル

カラフルは障がい者福祉サービスの生活介護事業所として、主に高齢の方や重度障がいの方の年中活動においてリズムある充実した生活づくりに取り組んでいます。特に、地域に向かう活動に力を入れ、日々の散歩でのあいさつ、駅舎の清掃などで利用者様と地域との「笑顔」のつながりが生まれています。

事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 生活介護 定員/30名
- (2)対象利用者 作業や創作活動を通して生きがいをつくりたい障がい者(障がいの特定なし)
- (3)所在地 福井市林町62-3
- (4)管理者名 恵美 浄文

コロナ禍でもできることを！ 研修旅行や、季節の風物詩「餅つき大会」の実施

今回は「奥越コース」日帰り研修旅行に決定。視覚情報等により飲み物を選んだり、おしゃべりしたりと移動時間も大いに楽しめました。事業所内の餅つき体験では利用者様の「よいしょっ、よいしょっ」の活気あふれる声が飛び交いました。さまざまな活動を通して「おはなしはマスク」を実施、マスク着用の大切さを伝えていくことで、着用率が上がっています。



地域との交流で 障がい学習と障がい理解、 および情報発信 (ブログでの活動発信)

元の東藤島小学校の児童から花の苗を植えたプランターをお預かりして、利用者様と水やりを行い、花の成長を楽しませていただきました。コロナ禍のため直接、小学生との交流はできませんでしたが、今後のつながりに向け取り組んでいます。



笑顔と元気で、
地域との交流に
信頼を築きます。



ユニバーサルスポーツを通して 利用者様の健康維持増進、ソーシャルスキル向上

利用者様の健康維持と残存能力の後退防止を目的に、ボッチャや卓球バレーを日々の活動に取り入れています。利用者様が取り組みやすいルールづくりを行い、チームで協力しながら、相手を褒め、信頼することを学び、元気に生きいきと、共に「笑顔」になれる活動を提供しています。

次年度に向けた 取り組み

カラフルでは、高齢や重度の利用者様の「生きがいづくり」として、創作活動やユニバーサルスポーツ(卓球バレー、ボッチャ等)を継続的に取り入れていきます。また、コロナ禍の状況を鑑みながら感染症対策を行い、地元小・中・高等学校や地域の方との交流の機会を考え、共に喜びを見出していきます。

足羽更生園

重度の障がいがある方の施設入所支援を中心に、安全安心の支援を提供しています。日中活動では個別の環境調整・小規模グループ化・社会参加の機会充実、暮らしの場では余暇の充実・地域移行支援など、一人ひとりの望む暮らしの実現に向け「共に」取り組んでいます。

事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 障害者支援施設 施設入所支援 定員/60名 生活介護事業 定員/60名 短期入所支援 定員/4名 日中一時支援 定員/5名
- (2)対象利用者 施設支援を必要とする障がい者(障害の特定なし)
- (3)所在地 福井市宿布町19-46-1
- (4)管理者名 嶋田 富士男

「成長の見える化」をもとに 「不安を安心につなげる」取り組み

コロナ禍で帰省等が限られ、利用者様とご家族の触れ合う機会が大きく減りました。そのため、ご家族の方々に対し、各ユニットや日中活動での様子をわかりやすく伝える「〇〇さんだより」を毎月発行。ご家族からの感謝のお言葉をいただきながら、小さな変化を共有できることの嬉しさ、大切さを再確認しました。



利用者様と
ご家族の望む
「暮らし実現」に
向けて。



安全・安心に非日常の 楽しみを味わえる イベントの企画・実施

新型コロナウイルス感染症予防が継続される中でしたが、利用者様には少しでも地域社会とのつながりや、非日常の楽しみを味わえる機会を提供しようと、さまざまな行事や活動を企画しました。移動販売車を呼んでの模擬店祭りや買い物学習、体験に重きを置いた桜餅づくりやスイカ割りの実施など、活動を通じ利用者様の新たな一面に出逢える貴重な時間となりました。

感染を広げないための 園内全職員での取り組み

年度は全職員対象に、マスクやフェイスシールド、ガウンや手袋など、个人防护具の着脱手技の確認を行いました。今回は個別に確認ができたことで、職員個々も自分の手技の間違いに気づき、確認を行った健康管理グループでも全体的な課題を踏まえ着脱方法の再検討につなげました。



次年度に向けた 取り組み

利用者様の個々に合った支援プログラムのPDCAとマニュアルの視覚化を実施します。地元自治会と連携のもと「福祉避難所の在り方」を検討し、課題の洗い出し及び、解決に向けた取り組みを実施します。また、重度障がい者に特化した生活介護事業所開設の準備と資金の積み立てを行っていきます。

あすわ第1 / あすわ第2 / あすわ第3

事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 共同生活援助 3事業所(グループホーム17か所) あすわ第1…グループホーム4か所 総定員/34名 (2)対象利用者 地域で自分らしく暮らしたい障がい者(障がいの特定なし)
- あすわ第2…グループホーム8か所 総定員/62名 あすわ第3…グループホーム5か所 総定員/39名 (3)代表所在地 福井市相野町20-5
- 短期入所 たんぼぼ短期入所…定員/2名 あすわ短期入所…定員/4名 ひまわり短期入所…定員/2名 (4)管理者名 あすわ第1…平澤 明 あすわ第2…吉村 宜利子 あすわ第3…荒川 待子



あすわ第1 グループホームの少人数化と地域生活に向けての 取り組み ~たんぼぼの新築移転~

た んぼぼの老朽化、少人数化に対応するため計画的に取り組んできました。大家様はじめ多数の方々のご協力のおかげで、南四ツ居町に3月21日開設することができました。これからも地域の方々に愛されるよう、本人たちが望むそれぞれの生活に寄り添いながら支援していきたいと思ひます。



あすわ第3 利用者様一人ひとりの 「いいところ探し」への 取り組み

利 用者様が心穏やかに過ごせるよう「ありがとう」を増やす活動「ほめ言葉のシャワー」を定期的に設けました。うれしかったことや感謝したことを言葉にしたりメッセージボードに貼ったり。拍手のシャワーを送り合うことで笑顔が増え、感謝の言葉も自然と出るようになってきました。

自分らしく
地域と暮らす。
そんな利用者様に、
支援を通して
寄り添います。

あすわ第2 カレーを作ったよ

コ ロナ禍で外食もできない中で、グループホームで家庭的な食事づくりを支援しました。慣れない手つきのカレー作りでしたが、自分たちで作ったカレーはおいしい。笑顔いっぱいの一ときになりました。他のグループホームでは、スパゲティ、おにぎり等、おやつ作りではホットケーキやぜんざい、チョコケーキ作りを楽しみました。



次年度に 向けた 取り組み

引き続き計画的に利用者様の生活環境の整備を行っていきます。また、地域のニーズが高い短期入所事業の利用拡大に取り組みます。新しい生活様式とコロナ感染対策を徹底しながら、利用者様の生活がより豊かなものになるよう、個別に余暇の充実に力を入れて支援していきます。



あすわ相談支援 事業所リアン

事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 計画相談支援 障害児相談支援 地域移行支援 地域定着支援 (3)所在地 福井市米松2-6-28
- (2)対象利用者 相談支援を必要とされる方(障がいの特定なし) (4)管理者名 渡辺 順子

障がいのある方の就学、進路、住まい探し、地域移行への対応などについて、ご本人やご家族などのご相談に応じさせていただきます。その中で、情報提供やサービスの利用に関する支援を行い、関係機関と連携して利用者様が望む暮らしの実現に向けて取り組みます。



育児の悩み・辛さ・相談できない思い 「保育園年中のA様のお母様の場合」

自 閉スペクトラム症で、好きなことを止められると発症するパニックや不規則な登園のA様との関わり方について、お母様は相談する相手が見つかりませんでした。そんな中、子ども発達支援センターを通じて相談員が話を伺うと、これまで人に言えなかった辛さを涙ながらに話してくれました。その後必要なサービスを調整し、保育所等訪問と短期入所を利用しながら、相談できる支援者を増やすことができました。

仕事も生活も楽しみたい 「T様の場合」

T 様は就労移行支援事業を利用し、老人施設で介護補助作業を中心に取り組んでいます。就職を目指し日々がんばっていましたが、作業や生活の中で不安なことが募ると「もう無理です！上手く仕事ができない」という状況となるという相談がありました。仕事の目標は就労支援員、生活のことは相談員と互いに状況を共有し、応援させていただくことで大きな自信と安心につながり、安定した地域生活が継続できるようになりました。今春に就職の見通しとなっています。



まずは
相談することから。
気がねなく
なんでもお伝えく
ださい。

家族アンケートの初実施

今 年度、第三者評価に代わる評価として、利用者様の満足度調査をアンケート形式で行い無作為に回答をいただきました。9割を超える方々から満足との声をいただくことができた一方で、担当相談員の顔がわからない、忙しそうで連絡しにくいなどの意見もいただいています。コロナ禍であっても、顔が見える、相談しやすい関係が築いていけるよう、サービスの質向上に励んでいきます。(アンケート結果は足羽福祉社会ホームページに掲載)



次年度に 向けた 取り組み

質の高い相談支援によって全障がいに対応することにより、利用者様の夢や希望の実現に向けて取り組んでいきます。また、法人内の高齢者福祉部門と連携し、利用者様の高齢化に伴うさまざまな課題に対して職員の相談力を向上します。



愛全園

出かけて安心、過ごして満足、相談にも親切、丁寧なサービスの提供を心がけています。日常の介護はもちろん、健康への看護とおいしい食事には特に気を配っています。さらにこれからは、在宅からご利用の方、入居されている方一人ひとりの状態をしっかり見て、その方に適した生活活動の向上への介護に取り組みます。

事業所データ(令和4年4月1日現在)

(1)事業内容	ユニット型介護老人福祉施設…定員/60名 従来型介護老人福祉施設…定員/30名 短期入所生活介護…定員/35名 通所介護…定員/25名 居宅介護支援事業所 認知症対応型共同生活介護…定員/9名	(2)対象利用者	65歳以上の高齢者(第1号被保険者)及び40歳～64歳までの医療保険加入者(第2号被保険者)
		(3)所在地	福井市丸山町40-7
		(4)管理者名	滝波 正興

利用者様を中心に、固い絆で結ばれたチーム

愛 全園GHの運営は令和4年3月より休止判断を行いました。結果的には職員同士の連携強化につながり、より固いチーム意識の向上が図られました。また、コロナ禍の中であっても、職員個々の感染症に対する取り組み強化を継続し、声を掛け合い、相互チェックを行いながら、感染症発生ゼロを達成しています。



コロナ禍だから見えてきた、「できること」の大切さ。

新型コロナウイルス感染症で絶たれた地域コミュニティを少しでも

コ ロナ禍による外出自粛で、地域コミュニティがほとんど中止となった年度でした。このような状況の中、社会福祉法人として「できない」ではなく「できることとは何か？」を常に考えました。感染防止対策を充分にとったうえで、地域住民・地区社協の方々と共に地域の高齢者が孤立しない、孤立させない取り組みを行いました。



少しでも利用者様と共に楽しめる催し開催

す べての利用者様が集う催し物は開催できませんでしたが、昨年末には毎年恒例の「年越し餅つき大会」を開催。久しぶりに体を動かす機会となった利用者様は笑顔で、時には大きな声で、各々に楽しんでいました。

次年度に向けた取り組み

ACPへの取り組み(アセスメント充実・人生アルバム制作)の推進
記録システムや介護周辺機器を見直し、業務のスリム化による業務の負担軽減と生産性向上を目指します。
※ACP:アドバンス・ケア・プランニング



足羽利生苑

足羽利生苑は、特に認知症高齢者介護を使命としており、満足の高いサービス提供で介護にかかわっています。安全で親しみやすく家庭的な雰囲気と空間を創造し、親切丁寧、敬愛の念を持ち、利用者様の笑顔や残された能力を引き出し、安心できる暮らしを支援していきます。

事業所データ(令和4年4月1日現在)

(1)事業内容	介護老人福祉施設…定員/59名 (介護予防)短期入所生活介護…定員/15名 通所介護…定員/20名(福井市日常生活総合事業通所型A型・通所型予防給付相当含む) 地域密着型介護老人福祉施設…定員/18名(介護予防)認知症対応型通所介護…定員/12名 居宅介護支援事業	(2)対象利用者	要支援・要介護高齢者
		(3)所在地	福井市柘野町20-7
		(4)管理者名	岩本 昌雄

新しい仲間!ダンさんとメアアンさん

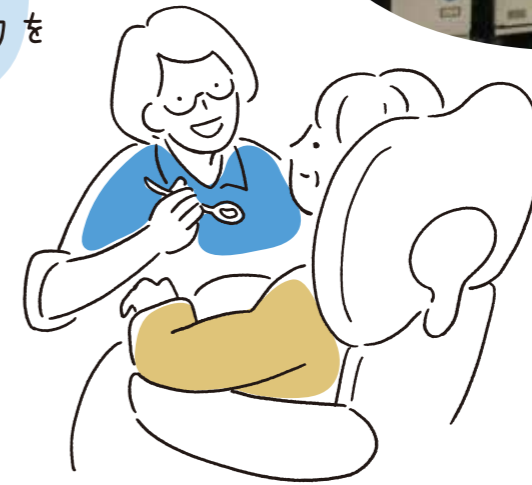
命 和4年2月17日、横浜での研修を終え、EPA(経済連携協定)によるフィリピン出身の2人が足羽利生苑に来てくれました。今は、日本語の勉強が中心ですが、整容やコミュニケーションを通して利用者様とかかわりを持ちながら介護の経験を増やし、3年後の介護福祉士取得を目指します!



安心の環境で、新しい仲間と、気づかなかった能力を引き出します。

一緒に盛り上げられる行事の開催「長寿を祝う会」

コ ロナ禍のため、ご家族様と利用者様が集まることが難しい行事だったため、特に催し物に工夫を凝らしました。職員が7つのユニットを順に訪問し、より近い場所で敬老のお祝いをしました。職員扮するお相撲さんとの一番はとても盛り上がり「共に生きいき」できた時間でした。



会議資料のペーパーレスとデータの見える化を促進 ペーパーレス11.21%削減達成!

ペ ーパーレスに本格的に取り組んで約2年。紙を無くすことで、印刷や配布時間等、さまざまな業務改善につながりました。会議はPCやタブレットで行い、事故報告はグラフで確認。接遇自己評価も達成度を数値化することで、改善点をはじめ、結果や成果がわかりやすくなりました。

次年度に向けた取り組み

フィリピンからのEPA介護福祉士候補生の2名には、生活基盤及び地域社会に馴染む支援を行い、受験への備えに集中できる環境をサポートします。
職員一人ひとりが業務効率化への取り組みを拠点挙げて共有。得られた成果でサービスの質向上につなげるサイクルを定着させます。



グループホーム 美山

事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 認知症対応型共同生活介護…定員/9名
小規模多機能型居宅介護事業所…定員/29名
その他緊急時対応ショートステイ…各1名 共生型生活介護・短期入所
- (2)対象利用者 要支援・要介護高齢者
- (3)所在地 福井市美山町6-1
- (4)管理者名 藤原 行順

「美山で育ち、美山で暮らす…」利用者様の想いに応えるため、2つの事業で地域での生活を支援しています。特に「地域と共に」を念頭に置き、地域との双方向の交わりを大事にし、「地域密着型施設」として地域に信頼される施設を目指しています。



コロナ禍でも変わらぬ日常で、利用者様の生活に彩りを

8 月の終わり、グループホーム美山にある畑で枝豆を収穫しました。この畑は地域の方の協力を得て、ジャガイモやイチゴなど季節に合わせた苗を利用者様と共に植えています。日頃の水やりは利用者様と行い、生育具合を毎日確かめるのが日課になっています。今年も豊作。収穫後は湯がいてみんなでおいしくいただきました。



美山への地域愛を大切に、この場所で楽しく元気に過ごしていきます。



今年こそはいい年になあれ

雪 が落ちてきてきた2月のある日、福井市にある和田八幡宮に遅めの初詣に出かけました。ワクチンも3回接種し、マスク等の感染対策も徹底した上での参拝です。グループホーム美山では1名の感染者も出していないので、今年もまた感染の心配のない、おだやかでいい年になりますようにお願いしました。

地域の方の交流の場

美 山公民館で月2回開催される人気の『地域交流カフェ』。毎回20名近くの方に参加していただき交流を深めています。コロナ禍により安定した開催ができていない現在も「カフェだより」を毎月発行し、参加者の方の自宅を訪問しながら、つながりを継続。早く当たり前のように対面で交流できる日を心待ちにしています。



次年度に向けた取り組み

利用者様の長年の人生の中で、この2年間ほど人との交流が制限され、外出もままならなかった時期はなかったかと思います。今後の見通しも立ちにくい状況ではありますが、非日常的な催しだけでなく日々の生活の充実をいかに図れるのかを、利用者様と共に創り上げていきたいと考えています。



福井大東 包括支援センター

事業所データ(令和4年4月1日現在)

- (1)事業内容 地域包括支援事業 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業
- (2)対象利用者 地域住民 65歳以上の高齢者(第1号被保険者) 及び40歳～64歳までの医療保険加入者(第2号被保険者)
- (3)所在地 福井市丸山町40-7 愛全園3階
- (4)管理者名 藤田 佐富美

地域にお住まいの高齢者が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、さまざまなお困り事に対して「主任ケアマネジャー」「社会福祉士」「保健師」などが中心となって、互いに連携をとりながら「チーム」として総合的に支援を行っています。

災害への備えをみんなで考える STEP1を開催

「ハ ゼードマップから地域の特徴を考える」をサブタイトルとし、各地区の民生・児童委員の皆さんや高齢者を支援しているケアマネジャー、介護サービス事業所の職員に集まっていただき、ハザードマップを見ながら地域の特徴を考えるグループワークを行いました。地形的な特徴への気づきや地域にある施設・企業と協力するなど、多種多様な視点から意見が飛び交い、実りある会になりました。



親しみのある地域のなかで、安心して過ごしていただくためのお手伝い。



もっと身近で、親しみのある包括へアイデアを凝らした周知活動

内3地区の特産品をモチーフにした新しいキャラクターを誕生させました。地域住民・各事業所から愛称を募った結果、菜おけの「おかぼん」、新保なすの「しんまる」、間山ブルーベリーの「まーぶる」という名称に決定しました。これからイベントやチラシでどんどん活躍の場を広げていきたいと思っています!



大東包括支援センターオリジナルキャラクター

地区の店舗へやさしいまちづくりへの働きかけ

福 井県認知症キャラバン・メイト協議会会長と共に圏域のお店を巡回し「100満ボルト福井本店」様、「平和堂フレンドマート開発店」様に認知症サポーター養成講座などを受講していただきました。その結果2店舗様とも「※認知症の人にやさしいお店」に認定。包括支援センターとして圏域のお店と定期的に情報共有することで認知症の人への大切な支援となっています。
※「やさしいお店ステッカー」が入り口に貼ってあります。



次年度に向けた取り組み

地域の高齢者が住み慣れたわが町・わが家でその人らしい生活が継続できるように支援します。地域の実情と特性を掴むためにもさらにアウトリーチを進め、各地区の地域課題に住民・関係機関と連携して取り組みます。また、より身近で親しみの持てるセンターとなれるよう、丁寧な接遇で対応し工夫したきめ細やかな広報や情報を発信していきます。

